

彩・菜・栽

2026年
7月

園芸研究家 ● 成松次郎
イラスト ● 成松次郎
● 小林裕美子

タマネギ 品種を使い分けて長く利用する

タマネギの生育は、15～20度の冷涼な気候が適しています。10度以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がリ、日が長くなって肥大します。タマネギは家庭菜園では便利な連作ができる作物です。

【品種】

早生系品種は収穫期が早い半面、貯蔵性に劣ります。反対に晩生系品種の収穫期は遅い半面、貯蔵性に優れます。長く収穫と利用を楽しむには早生と中生品種を作ることをお勧めします。早生には「ソニック」(タキイ種苗)、「浜育」(カネコ種苗)など、中生には「ターボ」「アトン」(いずれもタキイ種苗)などが良いでしょう。サラダ用の赤系品種には「猩々赤」(タキイ種苗)、「湘南レッド」(サカタのタネ)などがあります。

【苗作り】 *NPK＝窒素・リン酸・カリ
種まき適期は、中間地では極早生8月下旬～9月上旬、早生9月上旬、中生9月中旬、晩生は9月下旬です。早くまき過ぎると、越冬するまでに寒さに感応し、

とう立ちすること
があります。

種まき2週間前

までに、1平方m当たり

化成肥料100g(NPK各成分10%)、

堆肥2kg、過リン酸石灰100gをまき、

よく耕します。幅70～80cmのベッドを

作り、条間約10cmで短冊状に深さ1cm

ほどの溝を切ります。そこへ、約1cm間

隔で種をまき、軽く覆土します(図1)。

その後、不織布を敷き、乾燥と強雨対策

を行います。

発芽後に不織布を除き、本葉2枚の頃、

込み合った所を間引いて苗とします。草

丈が約10cmの頃、1平方m当たり化成肥

料約20gを条間にまき軽く耕します。

【畑の準備・植え付け】

植え付け2週間前に、1平方m当たり

苦土石灰100gを散布してよく耕し

ておきます。1週間前に化成肥料(NPK

各成分10%)200g、過リン酸石灰50

g、堆肥2kgを全面にまき、深さ15～20

cmに耕します。ベッド植え(4、5条植

え)にする場合は幅90～100cmの栽培



床を作り、条間、株間共に約15cmの穴開き黒マルチを張りまします。草丈20～25cm、太さ5～8mm程度の苗を掘り上げ、葉ごと部が2、3cm埋まる深さで植え付けまします(図2)。

【追肥】

1月上旬～中旬と2月中旬～3月上旬に、1平方m当たり化成肥料約20gを

株元(マルチ穴)に施します。

【病害虫防除】

病気では、赤色斑点のさび病、黄白色で不定形のくぼんだ病斑のべと病、害虫では、葉が白くかすり状となるネギアザミウマなどが見られるときは、登録農薬で防除します。

【収穫】

畑全体の7、8割の茎葉が倒れたら引き抜きます(図3)。2、3日、日に当たて干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所につるし、保存(貯蔵)します(図4)。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

図1 種まき

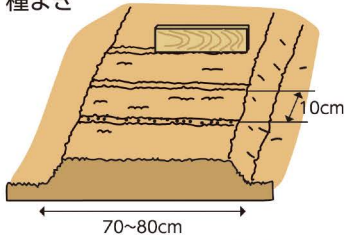


図2 植え付け

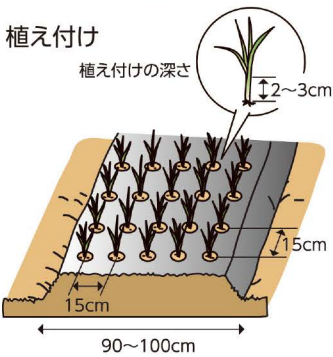


図3 収穫

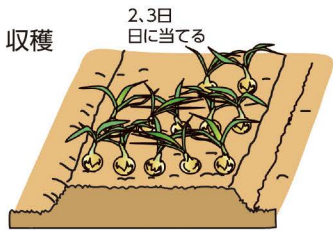
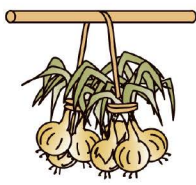


図4 保存(貯蔵)



栽培カレンダー(タマネギ)

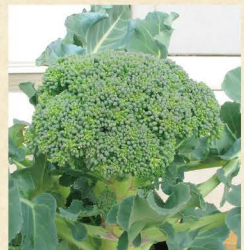
気候帯	早晩生	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	貯蔵期間
中間地 暖地	極早生	●	●	▲	▲	—	—	—	—	—	■	■	貯蔵に向かない
	早生	●	●	▲	▲	—	—	—	—	—	■	■	8月上旬まで
	中生	●	●	▲	▲	—	—	—	—	—	■	■	年内まで
	中晩生 晩生	●	●	▲	▲	—	—	—	—	—	■	■	翌2月末まで

● 種まき --- 苗作り ▲ 植え付け — 生育 ■ 収穫

みんなのコンテナ菜園

ブロッコリー

栽培しやすい
夏まき秋冬どり



「緑嶺」根張りが良く乾燥や過湿に強く形の良い花蕾が採れる頂花蕾・側花蕾兼用の中早生品種

頂花蕾・側花蕾兼用品種で長く収穫

ブロッコリーは、ケールを起源とするキャベツの仲間です。早生、晩生など品種の違いにより花蕾のできる条件が異なるため、必ず適期に種まきします。早生・中早生品種で7月中旬～8月中旬、晩生品種で8月下旬～9月中旬に種まきします。頂花蕾のみが大きくなるものと、頂花蕾の収穫後に側枝の花蕾も収穫できるものがあり、後者は年内から春まで収穫を楽しめます。育苗は高温期となるので、日よけと風通しを良くして、朝夕に水やりし、10月までは害虫防除も徹底します。

1 種まき

セルトレー(128穴)に育苗培土を入れ、3～4粒の種をまく。バーミキュライトをかけ(写真1)、表面を平らにし、土が流れないようにやさしく水やりする。



2 間引きと
植え替え

種まき後約2週間
で本葉1枚に
なったら、はさみで
トレー1穴当たり



2株に間引く(写真2)。苗は2株のまま9cmポリポットへ植え替える(写真3)。

3 植え付け

本葉5枚でポリ鉢(直径39cm)にB化成約40gを混ぜた土(25L)を入れ苗を植え付ける。子葉に土がかららない程度に深めに植え(写真4)、たっぷり水やりし、根付くまでは乾きに注意する。



4 追肥

1回目の追肥は、早生や中早生品種で植え付け後14日頃で、2回目は花蕾が見える頃にする。いずれも化成肥料(NPK各成分8-8-8)約12gを施し土と混ぜ、水やりする。



5 収穫

早生や中早生品種は10月下旬～12月(頂花蕾の直径12～13cm)に収穫する。兼用品種は収穫後に追肥し、年明けに側花蕾が伸びてきたら花蕾の直径4～5cmで収穫する(写真5)。



写真・文：園芸研究家 淡野一郎
写真©ICHIRO AWANO

病害虫の対策は
JAグリーンセンターに
ご相談ください。



JAアグリゼミ2026

家庭菜園のレベルアップを目指す方 参加してみませんか
4月・6月・8月・翌年2月の開催です

●中津川アグリセンター TEL 0573-62-4141 ●恵那アグリセンター TEL 0573-26-2982

●恵南アグリセンター TEL 0573-56-2171 ●恵那北アグリセンター TEL 0573-72-4113

平日の日中に開催
1回あたり2時間程度

各アグリセンターへ
お問い合わせください